

日本健康教育学会

学会設立の趣旨： 健康教育の充実、推進およびその普及を図ることを目的とする。

主な活動内容： 年次大会の開催（年1回）、シンポジウムの開催（年1回程度）、学会誌の刊行（年4回）
理事会・評議員会の開催、委員会・研究会活動など

学会員の構成： 地域保健・学校保健・産業保健の各分野で研究と実践に携わる専門職（約1200名）

ようこそ！

日本健康教育学会の紹介ブースへ！
この学会は、ヘルスプロモーション・健康教育に関連したさまざまな立場の人、研究者も実践家も、老いも若き？もが、真面目にしかもフランクに、そして楽しく、意見交換や交流ができる学会です。現役員からのメッセージを待たなく、その雰囲気はわかるでしょう。ぜひ一読を！！
女子栄養大学 武見ゆかり



健康教育、それは公衆衛生の基盤です。健康教育は1つ1つの仕事を研究心を持って実施し、その企画・実施・評価の技法を習得することが大切。本学会は健康教育の基礎的・実践的研究を推進しています。ご入会大歓迎！
名誉理事長 宮坂忠夫

研究や実践の方法論に厳しいのですが、その実現に労力をいとわぬ、暖かい学会だと感謝しています。地域性・ライフスタイルや行動を重視しつつ、研究や実践の理論展開力をつけたい（逆も）仲間が一人でも多く増えることを願っています。この例の一つは学会誌の査読がいてないで、質が高いので投稿中に研究力が目覚めるほど高まること「好評」です。
名古屋学芸大学大学院 足立己幸

現在、理事長を務めております衛藤隆です。日本健康教育学会は平成になって設立された比較的若い学会です。幅広い公衆衛生の各領域とかかわりを持ち、国際的な視野と交流の実践に力を入れている学会です。
日本子ども家庭総合研究所 衛藤 隆（理事長）

健康を推進するために、人々が毎日の生活の場で自ら努力することを支援し、それを可能にするために役立つ研究、また、方法論を開発することを重要視しております。領域や職種を超えたコラボレーションが特徴です。
目白大学 川田智恵子



本学会は学校、地域、職場等での健康教育の実践・研究を学際的、国際的に深めると共に、NPO法人日本健康教育士養成機構と共催で実践及び専門健康教育士を養成、認定して社会貢献をしているユニークな学会です。ご参加をお待ちしています。
順天堂大学 大津一義

健康教育とヘルスプロモーションの研究と実践のための学会です。実践に研究に、研究に実践に、両者が作用し合い、相乗効果をおこすことによって、健康教育とヘルスプロモーションの質が向上します。皆様からの本学会雑誌への投稿を期待しています。
東京大学大学院医学系研究科 神馬征峰（編集委員長）

地域や職域に暮らすさまざまな課題を持った人たちが、安心して心地よく、健やかに日々を送ることができるような風土を、それぞれの地域、職域に実現することができればと思っています。
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター 岩永俊博

ヘルスプロモーションに関心のある人々が、職種を越えて集う多様性が本学会の特徴です。国際性も豊かで、韓国の保健教育健康増進学会との交流は4年前から発展し、この分野の世界会議 IUHPE とも協力を中、アジアとしての交流も本格化しつつあります。
福岡大学医学部 守山正樹

研修医時代に初めて参加した時（第4回、1994年）から、この学会の魅力にハマりました。職種を越えた横断的な交流・議論ができるのが魅力です。その領域は、IUHPE（健康教育・ヘルスプロモーション世界会議）にも繋がっており、日常の健康教育・患者教育から大きな予防医療への繋がりを実感できる学会です。是非皆さんのご参加をお待ちしています！
順天堂大学医学部 福田 洋

本学会は世界的な組織である「ヘルスプロモーション健康教育世界連合」IUHPE (INTERNATIONAL UNION FOR HEALTH PROMOTION AND EDUCATION) とつながっています。
獨協医科大学 武藤孝司

家族的な雰囲気のある学会です。PHCやヘルスプロモーション等の国際的な動向をふまえ、地域や学校、産業等で重要性が増してきている健康教育学について、理論に強い専門家や公衆衛生に情熱的な実務家が集まっています。
東京家政学院大学 松田正己

公衆衛生のツールとしての健康教育の重要性に関しては、多くの方が認めているのではないのでしょうか。本学会には、教育の理論だけでなく、具体的な実践内容や方法に関して議論する場があります。是非ご参加下さい。
千葉大学教育学部 高橋浩之

私の専門である養護教諭の行う健康教育・ヘルスプロモーション活動などの実践や研究、養成に関する学びも多い学会です。国際交流副委員長、IUHPE&NPWP JAPAN リエソノオフィス・ディレクターを務めています。
千葉大学教育学部 岡田加奈子

本学会は、WHO公認NGOであるINTERNATIONAL UNION FOR HEALTH PROMOTION AND EDUCATION (IUHPE, ヘルスプロモーション健康教育世界連合、本部パリ)と友好関係にあり、NPWP (北部西太平洋地域、会長：中原俊隆)と連携しています。
京都大学医学部 中原俊隆

この学会は、異職種、異分野、異年齢の会員と気さくに交流できます。活動や研究のアイデア、ヒントを欲しい方、疑問をお持ちの方など大歓迎。
日本子ども家庭総合研究所 小山 修 (基本問題委員長)

様々な分野の研究者と交流できるのが、この学会の魅力です。若手の積極的で継続的な参加を期待しています。日本における、健康教育とヘルスプロモーションの中心的な学会であり続けたいと願っています。
群馬大学医学部 吉田 亨

個人や社会が抱えている健康課題の解決策を教育ならびに環境面から研究し、その普及を図ることを目指した学会です。本学会は、健康教育や保健指導の具体的な方法論を学ぶ場であるとともに、広い視野で現場での仕事を振り返ることができるのが特徴です。
大阪府立健康科学センター 中村正和 (広報委員長)

歯科では、8020運動、健康日本21、健康増進法に歯の健康が取り入れられるなど、診療や地域活動において健康や生活に関わりを持つ取り組みが増えています。これらはまさにHEALTH PROMOTIONであり、健康教育の比重が増してきました。
福岡歯科大学 筒井昭仁

医療制度改革のなかで、「成果を出す」保健指導が求められています。これまでも、対象者の主体性を尊重し、「気づき」を促すなど、プロセスを大切に健康教育をしてきました。健康教育の「成果」とは何かを改めて問うとともに、その「成果」とプロセスとの関係を分析することが必要です。
大分県福祉保健部 藤内修二

様々な分野の研究者と交流できるのが、この学会の魅力です。若手の積極的で継続的な参加を期待しています。日本における、健康教育とヘルスプロモーションの中心的な学会であり続けたいと願っています。
群馬大学医学部 吉田 亨

日本健康教育学会開催の記録

回	開催年	開催地	学会長	テーマ
第1回	1991年	東京	宮坂忠夫	第1回日本健康教育学会総会
第2回	1992年	埼玉	宮坂忠夫	第2回日本健康教育学会総会
第3回	1993年	千葉	江口篤寿	第3回日本健康教育学会総会
第4回	1994年	東京	福渡 靖	健康教育とヘルスプロモーション
第5回	1996年	東京	川田智恵子	健康教育・ヘルスプロモーションと社会環境づくり
第6回	1997年	北九州	高田和美	生涯を通じた健康づくりを考える
第7回	1998年	埼玉	足立己幸	ひとりひとりの生活の質 (QOL) を高める健康教育とは、環境づくりとは
第8回	1999年	大阪	藤岡千秋	21世紀に向けての健康教育
第9回	2000年	千葉	大津一義	健康教育のパワーシフト
第10回	2001年	神戸	南 哲	高齢社会の安寧・広範な健康教育の開発・発展途上国に対する健康教育の支援
第11回	2002年	東京	川口 毅	健康教育の普及を目指して
第12回	2003年	沖縄	崎原盛造	いのち育心健康教育の実践
第13回	2004年	栃木	武藤孝司	エビデンスに基づく健康教育・ヘルスプロモーション
第14回	2005年	福岡	守山正樹	ヘルシー・コンファレンスの創出—対話と交流を通して
第15回	2006年	東京	衛藤 隆	健康で安全な環境づくりと健康教育
第16回	2007年	大阪	山川正信	健康教育のパラダイムシフト
第17回	2008年	東京	小山 修	健康教育のスキルを高める
第18回	2009年	東京	神馬征峰	ヘルスプロモーションを超えて：健康か幸福か？
第19回	2010年	京都	中原俊隆	行動変容を促す健康教育
第20回	2011年	福岡	筒井昭仁	ウェルビーイングを考える—オープンプラットフォーム：出会いから交流へ—